

主な論点(事務局案)

1. 各地域には、歴史、文化、風土等に根ざした、優れた産業資源(産地の技術、地域の農林水産品、伝統文化、自然・景観等)が存在しており、こうした地域の産業資源は差別化された魅力ある商品を生み出す確かな要素となり得るのではないか。
2. (1) しかしながら、中小企業においては、地域資源の活用が従来からの方法にとどまっており、その特性を強みとして生かきれていないのではないか。

(2) 市場ニーズを意識した企画・開発等が重要であるが、地域の中小企業にはこうした発想が浸透していない面があるのではないか。また、そうしたアプローチを行うためのノウハウや資金が不足しているのではないか。
3. (1) こうした現状を踏まえ、中小企業による地域資源の特性を活かした価値創造を促進するための支援を強化していくべきではないか。具体的に、どのような支援策を講じていくべきか。

(2) 例えば、中小企業と外部の人材との出会いの場の設定、専門家によるアドバイスの充実、商談の機会の拡大、普及・啓発等により、地域の中小企業による市場志向の取組を促進するべきではないか。

(3) また、地域資源の新たな活用方法を切り開くような新規性の高い新商品開発等の取組が、その地域資源の価値を高め、地域の他の中小企業の前向きな取組を活性化するきっかけになると期待されることから、専門家によるアドバイスや試作品開発等に対する支援により、こうした新規性の高い取組を重点的に支援すべきではないか。

4. 自治体、各種中小企業支援機関、地域金融機関等とのネットワークを強化し、効果的な支援の体制を構築していくことが重要ではないか。

(参考) 第1回経営支援部会における各委員の意見

近年、食糧需要が変化しており、安全・安心な食に対する関心が強い。また、少子高齢化が進展し、食生活の多様化も進んでいる。農水産物を地域資源として需要にどう結びつけるかが重要。

市場は3大都市圏に集中しているが、こうしたマーケットとどう繋いでいくのか、それが見えるように考えるべき。

地域の大学と中小企業との連携も強化すべき。今まで発想もできなかった地域資源がたくさんあり得る。

情報を発信する「場」を提供し、人材を育成するといった具合に、プロセスマネジメントのできる人材を育成することが、よりグローバルに繋がっていく。

国際分業の中の産業の棲み分けなど、産業の立地全体を見わたした議論が必要。

農作物等の物理的なものもいいが、繊維のように、地域分業構造の中にある技術資源も重要。

論点として、研究開発、マネジメント、商品開発、ネットワークとあるが、いずれも今までも言われていること。今ひとつ、新機軸のイメージが湧かない。

中国、韓国にできないことをつくっていくことが重要であり、その観点で、知財をいかに守っていくかが重要。

マーケットは外にあるので、地域の中の狭い視野で地域資源の活用を言ってみてもはじまらない。地域の外の人材とのネットワークが重要。